

2022年度 第1回 須坂市地域公共交通会議 議事録（概要版）

【日時】 2022年7月5日(火)午後4時から6時00分

【場所】 シルキービル 3階 第1ホール

【参加者】別紙

【配布資料】

- ・次第
- ・(資料1)須坂市地域公共交通会議資料
- ・(資料2)スザカのサスガをさがすバス春運行報告書
- ・(資料3)スザカのサスガをさがすバス秋運行ルート(案)
- ・(資料4)地域公共交通計画の作成について(株オリエントタルコンサルタンツ提供)
- ・座席表

【内 容】

1 開 会

欠席者の報告。

《出席19名(代理出席2名) 欠席6名 途中退室1名 傍聴1名》

会議は公開。議事録作成のため、会議内容を録音。

2 自己紹介

3 役員選出について

須坂市地域公共交通会議設置要綱第4条にて、会長1名および副会長1名、監事2名を委員が互選。

委員より「事務局一任」との提案。

【事務局】

これまで会長であった須坂市シニアクラブ連合会の委員と、副会長であった区長会の委員は、異動がなかったため、引き続き会長、副会長をお願いしたい。

監事についても同様に引き続きお願いしたい。

➡異議なし

会長・副会長登壇、会長よりあいさつ

4 議 事

(1) 協議事項

① 2021年度事業報告

② 2021年度事業歳入歳出決算について

【事務局より①・②についてまとめて説明。(会議資料P2～6)】

【委員より監査報告。】

◆質問

【委員】

・あしあとランプの今現在と感想について。

➡【事務局】

・予定台数全ての設置を完了しており、現在稼動中。

・「特定小電力無線」という無料の電波の関係で、場所によって電波が弱いという状況。

・業者が月に1回ほど調整を行っている。

・電波状況が改善されたところでプレスリリース。

➡協議事項①、②について承認

③2022年度事業計画(案)について

④2022年度事業歳入歳出予算(案)について

【事務局より③、④についてまとめて説明(会議資料P7～9)】

・6月7日の書面協議(今年度の生活交通ネットワーク計画)についても、協議事項の全
てにおいて全員承認のため併せて報告する。

◆質問なし

➡協議事項③、④について承認

⑤まちの元気創出事業における交通施策について

【事務局より説明(会議資料P10、別冊資料「スザカのサスガをさがすバス報告書(春運行)」、別紙資料「スザカのサスガをさがすバス(秋)ルート案」)】

(1)春の実証実験バス「スザカのサスガをさがすバス」運行結果について

- ・別冊資料「スザカのサスガをさがすバス報告書(春運行)」のP1は全体のまとめと分析。P2～9までは各日程のアンケート集計。P10～11については個別要望を列挙したものの。
- ・臥竜公園のバス停は片側バス停であるため、17日の運行から張り紙で注意喚起した。
- ・坂田の森バス停の利用者は無かった。
- ・利用客の中心は25～44歳の親子連れで、半数以上が臥竜公園および須坂市動物園を訪れている。
- ・予想以上の利用客によりバス車内で密状態が生じた。
- ・9時台の便の要望や、バスの年間パス設定の要望があった。

(2)秋の実証実験バス運行について

- ・別紙資料「スザカのサスガをさがすバス(秋)ルート案」から説明。
- ・運行ルートは、行き帰りとも田中本家博物館を通るルートとし、アートパーク駐車場への乗り入れは、期間中イベントスペースとなるためにしない。
- ・時刻表は春の運行結果から、9時台を追加した7便で運行を予定。
- ・運賃については、200円をベースにした乗り放題。
- ・支援業者は、伊那市の広告会社、アドコマーシャル㈱に決定。

(3)ラッピングバスについて(カラー刷りバスイラスト)

- ・黄色を基調としたカラーデザイン。須坂市の特産物や景観、動物園のキャラクターを配置。内装は、外装キャラクターをドット配置したデザイン。

【アドバイザー】

- ・市民バス4路線、平日乗車が4路線で約300人。休日になると仙仁線だけで100人程度、これを目安に考えるとサスガバスは無料で200名超え。仙仁線で考えると、新しい便を増やすことなくお客さんを増やしたため効果的。

- ・アンケート調査の分析から、親子連れが多いという特徴。普段車を使っている方や長野市内からわざわざ訪れるというケースも見られる。
- ・新たなラッピング車両を本格運行しようと考えたとき、今年は公共交通計画を作るので、このバスをどうしていくか。仙仁線はどのみち走らせており、コストが新しく増えるわけではないため、この路線を活かし親子連れに喜んでもらえる運賃体系もいいかもしれない。(年間パスポートなどを含めて)

◆質問なし

➡協議事項⑤について承認

⑥地域今日交通計画の策定について

【事務局より説明(会議資料P10)】

- ・今年度作成の地域公共交通計画策定委託業務の業者が決定し、東京に本社がある、株式会社オリエンタルコンサルタンツとなった。

【(株)オリエンタルコンサルタンツ】

作成スケジュールと提案内容について説明(別紙:⑥地域公共交通計画の作成について)

- ・11月までに各種調査を実施。
- ・12月頃に立案、年明け頃にパブリックコメントを実施予定。
- ・関係各所へのデータ提供をお願いしたい。
- ・データのない部分については、交通事業者を中心に調査のご協力をお願いしたい。
- ・立地適正化計画(拠点整理)と連携を図りながら計画の作成を進める。

【アドバイザー】

- ・休日の交通は、イオンモールが立地するということもあるので考えることが必要。
- ・市民バスを走らせるために6800万円がかかる。得られる運賃収入は現状で1,360万円、国からの補助金が680万円余り。国の補助も含めた総収入は全体の3割、7割が市で補助をしている状態。7割が市で負担するという方向で続けていくということで良いかどうか。
- ・高齢化が進み人口構成も変ったが、須坂には多くの子どもがいる。親は送り迎えなどが大変で、ちょっと使える公共交通というものがあれば、「私もパートに出られる」とか、

「お父さんの晩酌ができる」とか様々な可能性に繋がる。住んでよしの須坂市ためには考える必要がある。

・コンサルさんが入ったら、これで安心とは絶対に思わないでほしい。自分たちでどうするか作文するぐらいで議論してほしい。そのまとめやデータ・地図を作ってもらおうお手伝いというのが、コンサルの役割。

・立地適正化計画は令和5年度末作成で、今回の公共交通計画は令和4年度末に作成で立地適正化計画とうまくスケジュール調整ができないこともあると思うが、どのように考えているかを教えていただきたい。

➡【(株)オリエンタルコンサルタンツ】

・今年度の地域公共交通計画に反映するのは、立地適正化計画で決定する方針の部分。最終的なところは変わるが、適宜見直しをしていき地域公共交通計画の方も見直し、それぞれの成果を反映していく。

【アドバイザー】

・私に関ってきた案件では、二つやり方があり、一つは「公共交通計画が先で立地適正化計画が後」という須坂市と同じパターンの場合。もう一つは、「立地適正化計画が先行する場合」で、ここに住むのにおすすめな地域だから、そこに利便性の高い交通サービスを展開してというケース。

・須坂は前者。すべてを一筆書きのネットワークで書くというのは難しい。しかしある程度「線のネットワーク」で勝負していかなくちゃいけない。

・公共交通計画で先に利便性を示し、立地適正化計画に議論に委ねて、誘導区域を設定するときの根拠にさせていただく、こちら先導が作りやすいだろう。

・長野県で公共交通計画を作と思うが、こちらの計画とどう連携させるか方針はあるか。

【委員】

・県の場合はある程度広域的な移動を議論。

・須坂市として定める拠点や、どこを公共交通で結ぶかという議論があると思う。

・長野県もオリエンタルコンサルタンツさんで計画をやっているなので、うまく情報共有しながら進めていきたい。

【アドバイザー】

- ・県が全体として考える拠点というところと、須坂市が考える拠点で、ずれがあると収まりがよろしくない。県の計画と連携をいただければと思う。

◆質問なし

➡協議事項⑥について承認

⑦番バス子供無料デーの開催について

【事務局より説明(会議資料P11)】

◆質問

【委員】

- ・予算についてまちの元気創出事業とどのような関係となっているか。またこども無料デーの運賃補填はしているか。

➡【事務局】

- ・まちの元気創出事業は別事業であり、基本的には公共交通会議から支出している。
- ・バス停の装飾品や準備品などについては運行支援として公共交通会議から支出、子ども無料デーの運賃補填についても同様。

【委員】

- ・盆踊りなど沿線地域のイベントを併せて周知することで、家族でおでかけの目的ができ乗車意欲に繋がると思う。

➡【事務局】

- ・時期的な部分や各地域で行われるタイミングもあるかと思うので、情報得て対応していきたい。

➡【アドバイザー】

- ・「子供は無料」で「時刻はこうだよ」という概略があるだけでも結構訴求してくる。

- ・すでにGoogleマップにバス情報は掲載してあるので、うまく周知していく必要がある。
- ・「隣組回覧およびブログ・SNS の広報」と書いてあるが、子育て世代だと回覧はそんなに見ない。サスガバスは親子に訴求した訳なので、その方法で広報もしくは PR チャネルを設定した方がいい。

➡協議事項⑦について承認

(2) 報告事項

①すざか市民バス・すざか乗合タクシーの利用状況について

②バスICカードくるるの利用状況について

【事務局より①・②について一括して説明。(会議資料P12～22)】

【訂正】

会議資料P21～P22各集計表、年度ごとの集計表示について。

[誤] 2021-2022合計 ➡ [正]2020-2021合計

[誤] 2020-2021合計 ➡ [正]2019-2020合計

○市民バス利用状況

- ・コロナが落ち着き2022年度のバス利用者が若干回復傾向。東京では感染者増加の状況があり、今後注視していく。

○乗合タクシー利用状況

- ・2021年度前年度比で15%程度落ち込み。
- ・乗合タクシーは一人のユーザーが複数回使う傾向で、一人の利用控えが大きく影響。
- ・町別の利用者状況は、南小河原町の利用が落ち込んでいる。

○ICカードKURURUの利用状況

- ・バス利用者のICカード利用については、コロナの影響をそこまで受けていない。
- ・昼割の利用者も昨年度より増えて、コロナ前と同じぐらいの水準に戻りつつある。
- ・定期券の利用件数では、2022年度4月、5月定期券購入がかなり増えており、コロナ前の水準まで戻っている。

○ICカードSuicaについて

- ・交通系ICカードSuica の導入について、今年度、長野市の公共交通活性化再生協議会でSuica をベースとした地域連携ICカードを導入するということで協議を行うことが決まった。

◆質問無し

【アドバイザー】

- ・ICカードの利用件数だけで言えば、コロナ前の水準にほぼ戻っている。要因としては、やはり定期券の売上枚数。この数値も5、6年前の水準。
- ・仙仁線、明徳団地線は同じような傾向で急に通学が増え、一方で米子線は、去年と変わらず。なぜ通学利用が増えたかは見ていく必要があり、これが最大瞬間風速的なものなのか、継続的なものなのかは考えるべきだが、非常に好材料。
- ・一般的な自治体だと、コロナ前に比べて売り上げが70%台まで落ち込む。
- ・ガソリン代高騰があるかもしれない。保護者の多くは子供の送り迎えをしており、それが変わったかもしれない。

5 その他

◆全体を通しての意見

【委員】

- ・ラッピングバスについて具体的な情報がほしい。いつ頃から走り出すとか。

➡【事務局】

- ・須坂市内の「中沢デザイン」様へデザインをお願いしている。
- ・9月の4、11、18、19、23、25日。10月の2、9、10、16、23、30は全12回の運行。

【委員】

- ・地域公共交通計画の関係で、9月の後に素案という形だが、意見もあると思うので、途中、会議に限らず、皆さんに多くのご意見をいただけるような形をお願いしたい。

➡【事務局】

- ・アンケート調査などで課題抽出をして、都度会議で共有していきたい。会議に限らず、その都度協力を仰ぎたいと思う。

【委員】

- ・これから高齢者がすごく増える。ぜひ高齢者のことも考え、先々のことを考えながら、タクシーやバスは大事なものだという認識で議論いただければ嬉しい。

➡【事務局】

- ・高齢者の人口は増えていくため、その状況を勘案しながら今回の計画を作る。
- ・計画も5年先を見据えた計画で、将来的に状況が変わることもあるため、都度皆様と考えていきたい。

【委員】

- ・Google によるバス路線検索用データ整備では成果はあるか。

➡【事務局】

- ・担当者としてGoogle マップを観たときにすごく感動した。
- ・周知しているところではあるが、浸透してないのが実感。
- ・市の職員などに使わせると「いいね」という反応がすぐ返ってくるため、浸透すれば、早く広がっていくと思われる。

【アドバイザー】

- ・市民バスがグーグルマップに載るようになったのはいつからか。

➡【事務局】

- ・昨年の10月ぐらいGoogleに掲載し、12月ぐらいから広報をした。

【アドバイザー】

- ・4月になり、通学手段について親御さんと話されて、恐らくその場でスマホ検索などする。そこでGoogleマップで、バスを検索し長野の高校に間に合うなど分かり、バスを選択したという可能性もある。そういう仮説は成り立ちそう。
- ・本当にこれが訴求していると話になれば、長野県の公共交通計画にもインパクトを与えるため、細かく掘り下げていきたい。

6 閉会